

# 和顔愛語

寺報

令和3年3月号

## 季節の変化を感じ 潤いある生活を



一 寒四温の時期もようやくすぎ、穏やかな光のもと、春のお彼岸が近づいてきました。お寺の庭を眺めていると、季節の変化には、人間よりも、植物のほうが敏感なことがわかります。コロナの中でも、いつものように自然は変化していきます。2月には寒さの中にも、梅の花が開き、桜のつぼみも徐々に大きくなっていく様子が見受けられました。

私達のはっきりと春の日差しを感じるようになると梅が散り、それとともに本格的な春が訪れます。外に出て、肌で空気に触れ、鼻で香りを感じ、耳で季節の音を聞き、眼で景色を眺める。また舌で匂の味を楽しむなど、体で季節を実感することができず。この一年は外に出る機会が少なかったと思いますが、季節の変化を体で感じることは、心が変化するきっかけにもなります。春の花々を見つけ、春の風を感じることで、心も穏やかになっていくものです。私達の頭は日々いろいろな情報に接していつも考えを巡らせてい

ます。もちろん考えることはとても重要ですが、人生を充実させるためには、五感を使って変化を感じて、考えてばかりいる頭を休めることも大切です。自然の変化を感じると、不安やストレスが軽減されるといいます。

気候も穏やかになり、出かけるにはいい時分となりました。このお彼岸は三密を避けながら、お寺やお墓にお参りしてみたいかがでしょうか。あるいは近所を散歩し、五感を研ぎ澄ませて、陽光、花々の色や香り、ウグイスやメジロの春を知らせる美しい囀りなど、様々なものを感じ潤いある生活を送ってみてください。

季節の変化を感じることで、私達、今度は心の声に耳をすませましょう。お仏壇やお墓、そしてお寺の御本尊の前で、手を合わせて祈りを捧げる。そうやって誰かのために祈ることは、自分の内側に目を向けることでもあります。心の声を感じ、ご自身の心を大切にして春のお彼岸をお迎えください。

# お経の意味を知ろう③ ～日常勤行式編～

## 【三奉請】 【四奉請】

浄土宗では「日常勤行式」と呼ばれる式次第に則って読経します。式次第に書かれているお経(偈文)について毎号解説します。

【解説】  
香を焚き身も心も清め、仏、法、僧の三宝へ真心を込めて礼拝したところで、仏様にいらしていただきます。  
ここでお唱えする偈文は地域によって「三奉請」と「四奉請」に分かれます。大きく分けて関東を中心に三奉請、関西を中心に四奉請をお唱えし、読み方もそれぞれ異音(奉請「ぶじょう」と漢音(奉請「ほうせい」とに分かれます。))とに分かれます。が、大意としては「仏様をお招きする」に違いありませんので、いずれにせよ心を込めてお唱えすることが大切です。それでは偈文から意味を紐解いてみましょう。お経は漢字が連なり難解に思えますが、センテンスを付けることでより分かりやすくなります。三奉請ですと「奉請」「弥陀世尊」「入道場」とするの

【三奉請】  
奉請 弥陀世尊 入道場  
奉請 釈迦如来 入道場  
奉請 十方如来 入道場

【四奉請】  
奉請 十方如来 入道場 散華樂  
奉請 釈迦如来 入道場 散華樂  
奉請 彌陀如来 入道場 散華樂  
奉請 觀音勢至 諸大菩薩 入道場 散華樂

【意識】  
阿弥陀・釈迦・あらゆる世界の如来様、観音・勢至、そして、もろもろの菩薩様、どうぞこの道場にいらしてください。

※地域によってどちらかをお唱えします。

が適切でしょう。奉請は「請い奉る」となりますので、敬つてお願いする、の意味です。次のセンテンスはお招きする方のお名前となります。それぞれ阿弥陀様、お釈迦様、あらゆる仏様です。そして「入道場」は、いま私達がお経をお唱えしている「場所」をさします。  
四奉請はこれに加え観音菩薩・勢至菩薩をはじめとしたもろもろの菩薩様をお招きすることと、各偈文の末尾に「散華樂」とお唱えします。蓮華の花弁を模した散華を撒き、お迎える場所を清らかにするという意味があります。菩提寺での施餓鬼法要や十夜法要などの年中行事でも、法要の序盤に美しくまかれる光景を目にする機会も多いかと思えます。ご家庭では難しい作法ですので、日頃からお仏壇をきれいにしておくことが心がけ、敬いの気持ちを大切にお唱えしましょう。

## 浄土宗の 基礎知識

### 〜お焼香 おしょうこう〜

仏事では「焼香」をする機会が多くあります。焼香は香を捧げて仏様や故人をご供養するために行います。回数や作法が気になる方も多いでしょう。浄土宗では数に特段の定めはありません。普段の法事やお葬式の場合、お焼香の回数は一度で大丈夫です。まず仏前で合掌し一礼、それから右手の親指・人差し指・中指でお香をつまみ、そのまま右手のひらを返し、右手の甲に左手を添えてお香をいただきます(イラスト参照)。つまんだお香を炭にくべ、再度、心に南無阿弥陀仏と念じて合掌・一礼します。しっかりと供養の気持ちを込めましょう。



# 伝えたい言葉

(3)

生いけらば念ごう仏の功こうつもり  
死しなば浄土にまいりなん  
とてもかくても

この身には

思いわずろう事ことぞなき

(法然上人ご詠歌)

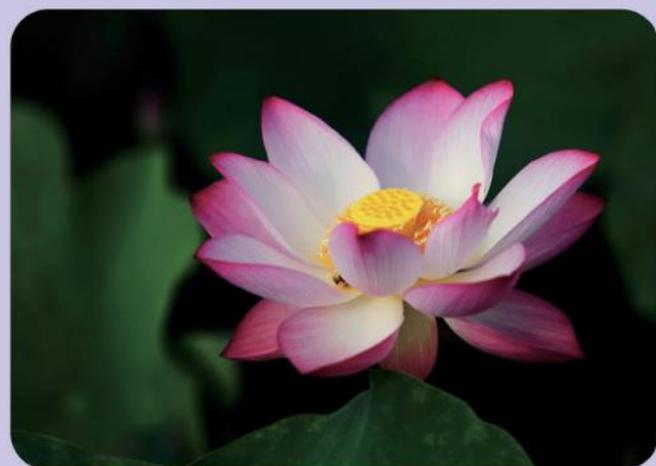
〔現代語訳〕

生きている間はお念仏をと  
えて功德が積み重なり、命いのち尽つき  
るときには(その功德で)極樂  
浄土に往生することでしょう。  
どうであつても私のこの身  
は思い煩わづらうことなどありません。

幸せな人生とはどんな人生で  
しょうか? 健康に過ごす日々、  
家族との円満な時間、欲しいも  
のがいつでも手に入る金銭的な  
余裕、こういったものは確かに  
幸せな人生を送るために大切な  
ものでしょう。この他にも人生

を幸せに送るためにこれがある、  
あれが欲しいと思ひ浮かぶもの  
があるでしょう。

その一方で、私達は必ず死  
に至ります。人間の致死率は  
100パーセントです。死んで  
しまつとこの世で手に入れた  
ものは手放さないとはいけませ  
ん。三途さんずの川を渡るのに、この  
世で蓄えた財産を持つていくこ  
ともできないでしょう。死んだ



お念仏の功德によって私達が臨終を迎えた際は浄土に咲く蓮の花  
の真ん中にある花托かたく(黄色い部分)に生まれるとされる

後に恨うらみを晴らす幽霊の存在は  
よく聞きますが、預金をおろす  
幽霊は聞いたことがありません。  
死んだ後にも人に対する恨みは  
残るのかもしれないが、物に  
対する欲はなくなるのかもしれ  
ませんね。

必ず死を迎える私達が、それ  
でも手放さずにもつておけるも  
のがあるのでしょうか? 浄土  
宗を開いた法然上人なら、間違  
いなくこういうでしょう。  
「ありますよ」と。

法然上人は自分の人生  
を、生きている間はお念  
仏をおとなえて功德を  
こつこつと貯めていき、  
死ぬときにはその功德が  
目印となつて阿弥陀様が  
私達を迎えに来てくださ  
ると考えました。生きて  
いるときにはお念仏をと  
なえて仏様とご縁を結び、  
亡くなったときにはその  
ご縁によつて仏様の世界

に導かれる。法然上人は、そん  
な風に考えながら「なんて気が  
楽なんだ」と気がついたので  
しょう。それは、間違いなく一  
つの幸せです。

功德とは、お金や持ちものと  
違い、心や身に具そなわるものです。  
その「思い」や「功德」が具そなわつ  
た心で、私達は死後の世界へと  
旅立つていきます。お念仏の功  
徳のみならず、大切な誰かに抱  
いた愛情、友達と友情、人々へ  
の感謝、様々な思いは心に刻ま  
れ、死んだ後の私達を導くエネ  
ルギーになることでしょう。あ  
の世がある、仏様の世界に往生  
できるといふのは、私達を支え  
る大切な思いが死んでもなくな  
らないということ、関係が続い  
ていくことです。

私達と阿弥陀様を結び、大切  
な思いを死後につなぐ南無阿弥  
陀仏のお念仏は、私達を幸せに  
してくれるものなのです。

## Q&Aですぐわかる！ なるほど浄土宗

③

身近な仏教の疑問をQ & A  
形式で説明します！

——阿弥陀様とほかの仏様の違いってなんですか？

——仏教にはいろいろな仏様や如来様がいます。仏と如来は同じようにさとりを得た人のことで、阿弥陀如来、釈迦如来、大日如来、薬師如来などが有名です。仏像としてみると金箔が貼られ、どれも同じ仏様のように見えます。もちろん仏様には共通する慈しみの心があり、私達のことを助けようと働きかけてくださっています。



一方で名前に違いがあるように、ほかにも違いがあります。例えば住む世界

です。阿弥陀如来は西方の極楽世界、薬師如来は東方の浄瑠璃世界など、仏様は各々に住んでいる世界があります。さらに私達の苦しみを取り除くために考えた内容も少しずつ違うのです。薬師如来は病気に苦しむ人を助けようと薬壺をもっています。お釈迦様（釈迦如来）は遙か昔、私達の世界に生まれ、説法によって救いの手を差し伸べました。

私達の安穩を願って、仏様は自らのいる世界に導こうとしてくださいますが、その方法も様々です。浄土宗で信仰する阿弥陀如来は「南無阿弥陀仏」とお念仏をとなえた者を極楽に迎え入れて、仏となる修行をしてみたらどうかと考えました。我々の死後、極楽で安らかに過ごせるよう「南無阿弥陀仏」をとなえるという簡単な方法を考えたのです。

確かにどの仏様も魅力的ですが、誰でもできる平易な修行で素晴らしい極楽世界に招いてくださる阿弥陀様は厳しい修行ができない我々の希望の星です。

## 住職あいさつ

昨年から、安心して外出することもままならず、気の抜けない日々をお過ごしのことと思います。しかしながらワクチンの提供が始まり、やっと一筋の光が見えてきた状況に、少しだけ安堵しております。

先行きが見えないことで感じる不安を拭うことは難しいことです。それは、いつ起こるか分からない天災を察知して防ぐことができないことにも似ています。私達ができることは普段から備えをして心を安らかに過ごすことかもしれません。

今日もいつも通り目が覚めて、生かされていることに感謝する。そのような心持ちで過ごせば心が安らかなる「安心」を得ることができるとは思いません。

毎朝のおつとめの中で、コロナウイルス感染症終息の祈願をしております。お檀家の皆様方に、一日も早く今までと変わらぬ平穏な日々が戻りますよう。

合掌

## 行事案内

◆春彼岸

3月17日(水) ～ 3月23日(火)

※お塔婆の申し込み、また代理でのお墓参りも承っております。ご希望の方は寺院へ直接ご連絡、若しくは冥加料を現金書留にて郵送下さい。後日お参りの様子をお手紙にてお送りさせていただきます。

### 普照山 正定寺

■所在地  
〒111-0036 東京都台東区松が谷2丁目1-2  
■TEL: 03-3841-1853 ■FAX: 03-3841-1777

### 紫金山 静蓮寺

■所在地  
〒110-0004 東京都台東区下谷1丁目12-21  
■TEL: 03-3843-4034 ■FAX: 03-3843-3442

### 母冲山 清見寺

■所在地  
〒100-2211 東京都小笠原村母島字元地122

